

無所属クラブ 杉本 信之 議員



- 1 組織の改善について
- 2 子育て施策について
- 3 ふるさと納税について

質問1 ※1ホウレンソウや問題事例等に対する提言・改善のシステムはあるか。不正などに対する告発がしやすい環境になっているか。第三者の弁護士や公認会計士などに相談できる事も必要と思うがどうか。 ※1 報告・連絡・相談の意

答弁1 コミュニケーション能力の向上の為にコーチングなどの研修もしている。又、職員を孤立させないようにもしている。問題があれば労働組合や公平委員会で相談できるようにもなっている。外部での相談のシステムは今後研究して行く。

質問2 これからは子どもの視点での育ちや自立を考

える「子育て支援」が必要である。又、子どもの権利条例の制定についてはどうか。子どもに関する審議会や委員会に、当事者である子どもの参加が必要だと思うがどうか。

答弁2 次世代育成支援行動計画の策定において、中学生や高校生のアンケートも取り入れている。放課後児童クラブや保育所での活動は子どもの意見を取り入れて、子どもの「育ち」を支援している。

又、子どもを「権利を行使する主体」と捉え、条例制定については、県や各市の状況も踏まえ検討していく。

質問3 現在の状況と今後の展開はどうか。

答弁3 7件の寄付がある。鈴鹿のイメージにあった3つの事業への寄付だが、寄付者の意向に沿った事業にも使用できる。各種イベントでPRする。

市政研究会 市川 哲夫 議員



- 1 FM局の開局による鈴鹿市の関与
- 2 災害時に於ける市の対応
- 3 鈴鹿市の都市像について

質問1(1) コミュニティFM局で市の関与は主に災害情報の発信媒体として活用が見込まれているようだがどのように行っていくのか。又、地元の住民に対しどのような啓発活動や支援を行っていくのか。

答弁1(1) 今後、FM局と防災協定を締結し、緊急放送の体制づくりを行う。現在、コミュニティFMを活用した新しいシステムの計画づくりに取り組んでいる。市民



には複数のメディアを組合せ、迅速かつ的確に災害の未然防止や被害軽減化の情報を発信する。

質問1(2) コミュニティFM局の今後の対応取組は。

答弁1(2) 重要なメディアと位置づけ防災啓発・消費者情報また外国人住民の為の外国語によるお知らせ等々日常的な情報の提供を行っていく。

質問2 災害時における地元の支援体制はどうか。

答弁2 被害の軽減化を図るうえで自治会単位での自主防災隊の組織化等による防災体制づくりに取り組む。

質問3 都市マスタープランにおける特に市街化調整区域の今後の開発の在り方についてどう考えているか。

答弁3 地域別構想の中で問題の対応も含め市街化調整区域の在り方について制度も含め県と共に検討を進めていきたい。

すずか倶楽部 原田 勝二 議員



- 1 観光圏整備構想について・観光圏整備法施行に対し、鈴鹿市の取り組み姿勢などを尋ねる

質問1(1) 観光圏整備法とは何か。

質問1(2) 同法に対する鈴鹿市の認識は。

質問1(3) 今後の取り組み姿勢、具体策について。

答弁1 通称観光圏整備法は、観光地が広域的に連携して、観光客が2泊以上滞在できるエリアを目指すことに加え、国際競争力の高い観光地とする事で地域の活性化などを促進させる事を目的とする法である。この法に対しての市の認識としては、モータースポーツや千代崎・鼓ヶ浦海水浴場、石薬師宿や大黒屋光太夫などの様々な観光資源を有している。しかし、本市の観光

資源だけでは2泊以上の滞在に対応は難しく、他市町と連携しながら整備計画を作成していくことが必要と考える。観光圏整備に取り組んでいくには、交通・宿泊といった観光関連産業に加え、農林漁業等も含め地域の幅広い業種間での連携や協力体制も必要になることから、民間や関係団体を構成メンバーとした協議会を新たに設立していくことも重要であると考えている。今後様々な事を視野に入れながら、前向きに検討し、整備の取り組みについて北勢地域の市町で構成する北伊勢広域観光推進協議会に提案していきたい。



千代崎海水浴場